

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.151

2012/06/20

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 食害を乗り越えササユリ開花

ネットの網目越しに撮った「大岩のササユリ」(12/06/18)

今年のササユリの保全作業は、4月28日から始めました。それ以降金網設置・ネット設置・金網調整が今日まで続いています。ネット設置は、今年初めての試みでした。失敗した箇所もありましたが、全体としては成功でした。昨年までは全ての株が金網で被われており来訪者にとっては、不満



写真撮影を意識して設置したネット(12/06/07)



左の画像の同日に網目越しに撮影(12/06/07)

の残るものでした。これを部分的に解消するべくネット設置にしました。上のポイントは、プロの写真家にも魅力があったらしく数日通ってこられた。今年は食害防止作業を行い開花したのが250株を超えた。開花のピークの中旬には連日100名を超える来訪者となった。特段の宣伝をしたわけでもないのだが盛況となりました。しかし、その一方でこれらの来訪者に対応するため会員の負担も大きくなると同時に、保全作業の停滞等の課題が浮かび上がってきました。来訪者の感想で一番目だったものは、ササユリが見事だったということの他に「観察コースの整備が行き届いており歩きやすかった」というものでした。このことは日ごろの『保全活動』が人を引き付けているということです。ササユリを観るというシーズンは終わろうとしています。ササユリの保全作業はこれからが本番です。咲き終わった花から良い朔果が採取できるまで、虫害や食害・金網の調整(朔果に傷が付かないように)が10月末まで続きます。日々の保全活動は微々たる進捗にしか映りませんが、継続が今日の森の多様性を保持してきました。明日からも次の一步をと思います。





サワランも順調に増える

付属湿地也大賑わい



たかが付属湿地されど『付属湿地』の実感が日々増大しています。2003年に植栽したオミズゴケは完全に定着し分厚いマット状となってきました。除草を繰り返すことで草本類への日照条件が良くなりサギソウ・モウセンゴケの分布が広がっています。クサレダマも群落的な広がりを持つようになりました。増殖中のサワランも驚くほど増えています。今年は、開花までには未だ数年か



南部湿原ネットに牡鹿かかる(12/06/12)



関西クモ研究会のみなさんとクモ調査(12/06/02)



岐阜市立青山中学1年生林床整備(12/06/07)



かりますが、湿原で増殖中のミヤコアザミの苗を5株付属湿地に移植しました。

昨年90名で保全活動に来てくれた岐阜の青山中学校から、今年は何と200名が林床整備作業に来てくれました。続いて地元西浅井中学校も保全作業を実施してくれる予定になっています。

こうした若い世代が保全活動に関心をもってくれることは本会のもっとも願っていることです。多くの人に関心を持ってもらうと同時に保全活動にも参加してもらえらる機会を増やしてゆきたいものです。